

**特定非営利活動法人ビーポップ**  
**2020年度（令和2年度）事業報告**

**【概観】**

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、定期的な通所/通学を鑑み、ビーポップの利用を控える方々も一定数見られた。一方で安定した日常生活を目指し、いつも通りに利用される方も多く、ビーポップの目指す「楽しい」ことへの指向が、皆さんの生活に根付いていることが再認識された一年であった。これに応えるべく、リスクマネジメントを行いながら、ニコニコランランの開始、霞ヶ浦で行うバーベキューなどの新しい取り組みにもチャレンジした。

また、緊急事態宣言下において、余暇支援以外のサービスが必要とされることも多くあった。利用実績のない方の送迎対応や通勤/通学の支援である。ビーポップ本来の事業に組み込まれてはいないものの、緊急性が高い場合にはできるだけ対応していきたい。

人材確保については、夏季の求人で応募のあった多数が定着し、皆と一緒にプログラムを楽しんでいる。ここからさらに個々人のスキルアップを目指しより豊かな活動へとつなげていきたい。マニュアルでない、それぞれの個性を生かしての成長が望まれる。

シップの活動は減員・減数で感染症予防に気を配りながらの実施となり、イベント開催も激減した。このことで組織の収入も大幅に減ってしまった。助成金等を活用し、活動を継続しているが、次年度に向けて、新たな助成金の活用や節約を心がける。従来の楽しさを維持しながら安定した組織を目指していきたい。

**【① 障害児・者の一時預かり事業及び余暇支援事業】**

当団体は現在、さいたま市・戸田市・川口市・蕨市・朝霞市・越谷市・草加市・鴻巣市における「生活サポート事業」に、登録している。また、放課後等デイサービス事業を実施している。(③障害福祉サービス参照)

実績は下記の通りである（全市合計）。参考として（）内に、一昨年度の実績を記してある。

・余暇支援事業（シップの開催）	185 開催（233）
・一時預り（生活サポート）	延 3412 時間（4631.5）
・宿 泊	延 19 泊（51）

11月からはマラソンを開始した。「ニコニコランラン」という名前にし、不定期的な活動から定期的活動への移行を目指し、2021年度も継続して行っていく。

2020 年度のビーポップの「イベント事業」としては、下記のものが挙げられる。

- ・サマぷら（長野県佐久市・宿泊キャンプ） 7/19～20、7/23～24、7/26～27  
8/2～3 【計 15 名】
- ・サマー・ゴー・アラウンド(施設内イベント) 8/23 【4 名】
- ・ビーポップ BBQ（霞ヶ浦） 11/29 【6 名】
- ・クリスマスイベント（障害者交流センター） 12/6
- ・農園でやってみよう 7/12 【計 6 名】

佐久市への宿泊キャンプは、一回の定員を 3 名～4 名とし、回数を増やすことで対策をした。また、クリスマスイベントは、総勢 40 名ほどの参加者で、体を動かしたり、楽器で音を出して遊んだりを楽しんだ。

## 【② 広報及び活動還元活動】

ビーポップの継続的な「広報活動」としては、「ビーポップ・ニュース」と『ウェブサイト』の二つがある。ビーポップニュースはこれまで同様、月一度のペースで発行している。引き続き、会員の方への発信の機会として、内容の充実とより早い発行を目指して行っていく。

## 【③ 障害福祉サービス等】

2020 年度の利用実績としては以下の通りである。参考として（）内に、一昨年度の実績を記してある。

- ・放課後等デイサービス 延 211 日（369 日）
- ・移動支援事業 年間 3872.5 時間（約 4409.5 時間）
- ・福祉有償移送サービス 1105 回（1351 回）
- ・居宅介護支援 実績無し（2 回）

### ○放課後等デイサービス

利用者の減少が、延日数に如実に現れている。開始当時 40 名ほどいた利用者も、卒業と同時にサービスの利用がなくなり、現在は 10 名ほどになっている。

また、放課後等デイサービスのイベントは下記の通りである。

8/7 ピザ作り 2 名 8/24 メロンパン作り 2 名

パン作りにおいては、お菓子作りのプロであった経験をもつバイトさんに協力を仰ぎ、本格的なメロンパンを作ることができた。

○ 移動支援事業

依然として、ヘルパーの確保はできていない。それ以上に、新規車両の購入が急務である。2020年度は24時間テレビ、日本財団に応募をしたが、当選にはならなかった。

【④ 福祉分野に関わる研修・啓発等の事業】

・職員研修

職員・スタッフの人材形成として研修会への参加の実績は、下記の通りである。

1月30日	「テレワークWEBセミナー」	1名
3月9日～22日	「福祉施設における新型コロナウイルス感染症対策」	4名
	「摂食・嚥下研修会」	(さいたま市主催) 4名
	「さいたま市NPO法人実務研修会(オンライン)」	1名
3月21日	「発達障害に関する講演会」	(さいたま市主催) 1名
3月31日	「虐待防止研修」	(さいたま市主催) 1名

これまでは、通常業務がある中で、研修日程の確保が困難なことが多かった。しかし、YOU TUBE 配信などによるオンライン研修が開催されるようになり、時間・場所を問わなくなったことで、研修が受けやすくなった。

・社会福祉士相談援助実習の受け入れ

○2月9日～22日の期間のうち9日間 (十文字学園女子大学)

社会福祉士相談援助実習を行った。

また、日本福祉大学の学生も夏に受け入れる予定であったが、大学側の意向により、中止となった。

【④ 障害者の社会参加をすすめる会】と共同する事業】

恒例となっている年末のパーティー「ドリーム・ディッセンバー」は残念ながら開催を見送った。

【⑥ その他の事業】

・「NPO法人のらんど」とのイベント

2020年度も、豊かな地域福祉づくり推進事業により、「NPO法人 のらんど」さんが企画した『農園でやってみよう!』に共催をした。7/12に行った「流しそうめん」企画は竹を使った遊びに変更をして行っている。また、3/21に行う予定であった「里芋の植え付け・いぶして遊ぼう」は開催を中止・延期となっている。

・さいたま市 障害福祉のしごと就職面談会

さいたま市が主催で、3月14日に浦和コミュニティセンター多目的ホールで行われ

る予定だったが、オンライン開催となった。当日は面談希望が入らなかったが、職場紹介の場、様々な人とつながる機会として、今後も参加をしていきたい。

- ・床暖房修理

ポップ館に設備されている床暖房の2面ある内の1面、暖房が入らなくなっていたところを修理した。

コントローラーパネルの接触の問題のみだったため、修理は一日で終わった。

- ・愛恵福祉支援財団による助成金で「シンセサイザー」を購入

公益財団法人『愛恵福祉支援財団』で募集していた社会福祉育成活動推進のための助成事業において、主にシップ活動で使用する「シンセサイザー」の購入を行った。

- ・多様な働き方実践企業に認定登録

埼玉県ウーマノミクス課で行われている認定制度に登録をした。

より良い職場環境づくりを、より良いサービスにもつなげていきたい。

- ・募金活動

2020年度は「ゆめ風基金」に送金できていない。

### 【新型コロナウイルス感染症への対応】

2020年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、4月には初めての「緊急事態宣言」が発令されました。その後も感染が収まらない中で、感染症対策としての備品の購入、助成金の利用等の対応を行いました。

また、シップ活動等の中止に加え、利用控えやイベントの見合わせによる事業収益の減収に対して国の支援策を活用することができました。

- ・「緊急事態宣言」等への対応

1回目の緊急事態宣言では、シップ活動は中止とし、必要な方への一時預かりとして対応しました。また、「ウキウキプール」は施設休館のための中止もありました。2回目の緊急事態宣言では、シップの人数を調整する形で活動を行いました。

また、より徹底した施設内の消毒、換気、体調管理に努めました。

- ・助成金の利用

○衛生管理体制確保支援事業（さいたま市）…体温計、消毒液等を購入。また、さいたま市からマスク、消毒液等が配布されました。

○新型コロナ支援事業助成金（埼玉県）…空気清浄機2個、車載対応空気清浄機3個、

ノートパソコン1台、除菌ペーパー、消毒液、ペーパータオル等を購入

○新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金（埼玉県）…8名に慰労金が支給されました。（講師2名含む）

○緊急雇用調整助成金（埼玉労働局）…シッポの休業よりお休みになったアルバイトの方への休業手当を支給し、助成金を活用。

○持続化給付金

○家賃支援給付金

○県中小企業個人事業主等家賃支援金（埼玉県）